

# 地方都市の自立

低炭素で持続可能な地域社会の構築に向けて



# 飯田市の概要



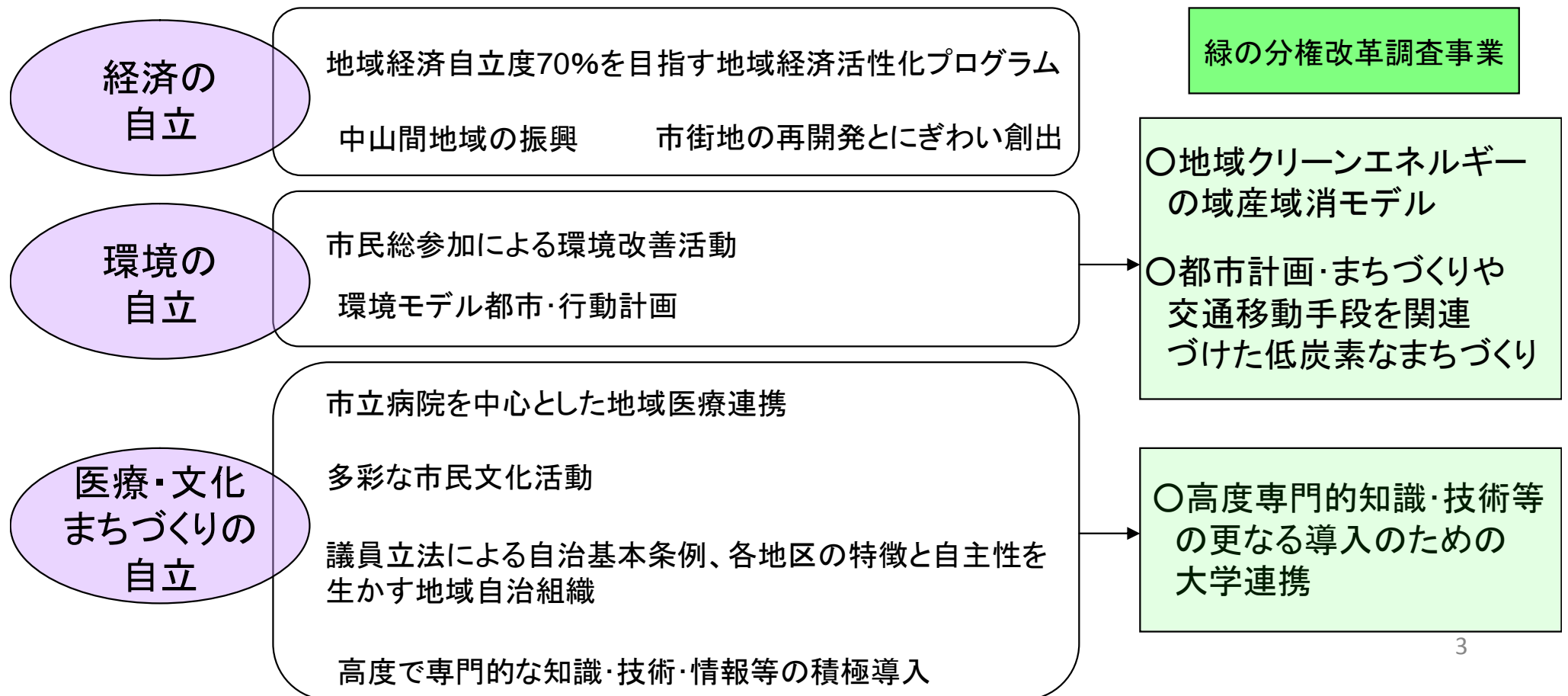
- 人口 105,372人(平成22年4月1日)
- 世帯数 37,801世帯(平成22年4月1日)
- 面積 658.76Km<sup>2</sup>(平成17年合併)  
林野率：84.3%
- 高齢化率 27.8%(平成21年4月1日)
- 商業販売額 約2,559億円
- 製造品出荷額 約3,139億円
- 農業産出額 約115億円
- 就業構造 第1次産業…10.9%  
第2次産業…36.5%  
第3次産業…52.5%
- 気象 平均気温 13.1℃  
年間降水量 1,767mm  
日照時間 2,094時間





# 飯田市が考える 「地域主権」の目指すべき姿

- 地域政策の立案主体は、基礎自治体である。
- 地域を経営するという視点、地域の特性を生かした地域産業政策を持って、資源・人材の「統合的なアプローチ」によって、定住と自立のための取組を展開すること。
- 地方に息づく固有の文化や暮らしをしっかりと守り(定住)、地域特性を生かした様々な分野における地域発のビジネスモデルを創出し(自立)、多様性に富んだ地域の魅力は磨かれ、住民や地域の自主性がいっそう高まり、これらがアイデンティティとして確立し、持続可能な地域社会を形成していくもの。



# 飯田市がめざす都市像

～文化経済自立都市と環境文化都市宣言～



# 飯田市環境モデル都市・行動計画概要

～温室効果ガス排出削減目標から～

2030年 排出の著しい家庭部門からの温室効果ガスを2005年対比40%～50%削減

## 温室効果ガス排出削減目標

2050年 地域全体から排出される温室効果ガスを2005年対比70%削減

### 中心市街地における低炭素まちづくりの実践

タウンエコエネルギーシステムの構築

- 太陽エネルギー（太陽光・太陽熱）の利用推進
- 建築物の省エネ化
- 中心市街地におけるタウンエコエネルギーシステムの展開
- 環境視点からの木材利用と森林管理の推進

### 公共交通と乗換えによる低炭素な移動手段の取り組み

低炭素な移動手段の確保

- 環境にやさしい移動手段（電気自動車や自転車等）の利用促進

### 地域ぐるみで低炭素型企业活動への取り組み

産業界との連携

- 地域ぐるみ環境ISO研究会を核とした低炭素企業活動の促進

### 住民の参画と人材確保

低炭素社会に向けた地域全体の意識改革

- 低炭素社会基本条例（仮称）の制定と努力義務化
- 地球温暖化防止コーディネーターの育成・活用
- カーボンオフセットを通じた地域間交流
- あらゆる機会を捉えた環境教育



# 飯田市における先進的な取り組み

## ～環境モデル都市の根幹～

### 太陽光市民共同発電の展開

～おひさまパワーを活かして～

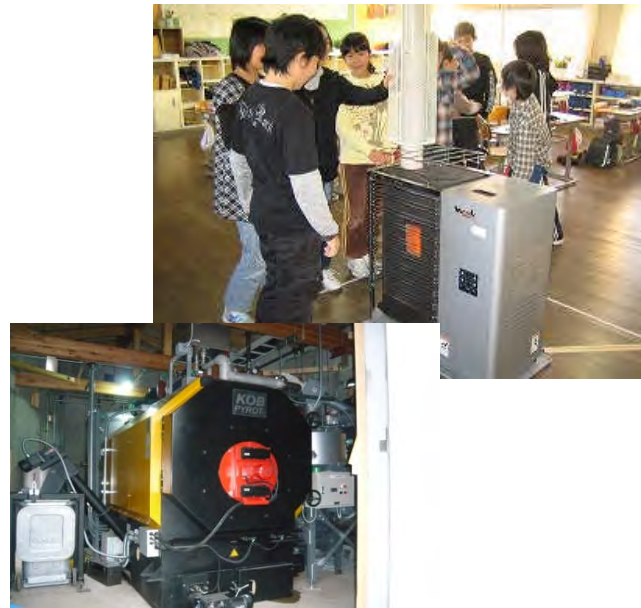
- 市民ファンド（匿名組合出資）を原資として、地域のエネルギー会社（おひさま進歩エネルギー株）が太陽光発電による電気供給を行う「太陽光市民共同発電事業」を展開。
- 豊富な日照時間（月平均129時間～201時間）を活かしつつ、住宅用太陽光発電奨励金制度により、住宅用太陽光発電の世帯普及率約23%を達成。



### 木質ペレットの利用拡大

～豊かな森林資源を活かして～

- 市域に占める森林の割合が約84%という地域の特性を活かし、林業の活性化と地球温暖化対策のハイブリッド事業としてペレットストーブやペレットボイラーを利用し、森のエネルギーの普及を展開。
- 推進主体として、関連民間事業者5社により、平成16年1月29日に「南信バイオマス協同組合」設立。



### 産業界との連携

～環境と経済の好循環を目指して～

- 環境ISOをキーワードとし、地域の自然を残し、持続可能な地域づくりのため、新しい環境改善の地域文化を創造する「地域ぐるみ環境ISO研究会」の活動。
- 消費者視点で地球環境を考える「グリーンクラブいいだ」、カーボンゼロの暮らしを実践する「いいだ自然エネルギーネット山法師」等の活動。
- ハイブリッド車の心臓メカニズムを独占する「多摩川精機株」や09年12月に太陽電池セル工場を増設する「三菱電機株中津川工場飯田工場」等の環境関連企業の存在。



# 地域ぐるみ環境ISO研究会

97.11発足時から

旭松食品(株)飯田工場

豆腐業界初 認証取得 99.12

オムロン飯田(株)

認証取得 98.10

多摩川精機(株)

認証取得 98.10

三菱電機(株)中津川製作所飯田工場

認証取得 98.3

平和時計製作所(株)

認証取得 98.10

飯田市役所

県内自治体初 認証取得 00.1

飯田TDK(株)

認証取得 98.7

中部電力(株)飯田支店

部門横断は電力業界初 認証取得 99.3

(株)八十二銀行飯田支店

地方銀行支店初 認証取得 01.3

井坪設備工業(有) いいむす21登録

(株)光和

いいむす21挑戦中

飯田信用金庫

認証取得 00.11

東日本システム建設(株)飯田支店

認証取得 99.12

(有)アイエス精工 いいむす21登録

エコトピア飯田(株)いいむす21登録  
工場「環境産業公園」内立地企業

(株)アース・グリーン・マネジメント 認証取得  
工場「環境産業公園」内立地企業

盟和産業(株)

認証取得 01.07

化成工業(株)

認証取得 01.05

(株)アイパックス

認証取得 01.05

吉川建設(株)

認証取得 01.05

木下建設(株) '09南信州宣言

認証取得 01.04

(株)原鉄

認証取得 02.05

神稲建設(株)

認証取得 02.05

南信共同アソシ(株)

認証取得 00.06

飯田商工会議所

認証取得 03.06

信南サービス(株)

いいむす21登録

(株)トーエネック飯田

認証取得 02.11

夏目光学(株)

認証取得 02.03

(株)マエダ

認証取得 04.07

(株)タカモリ

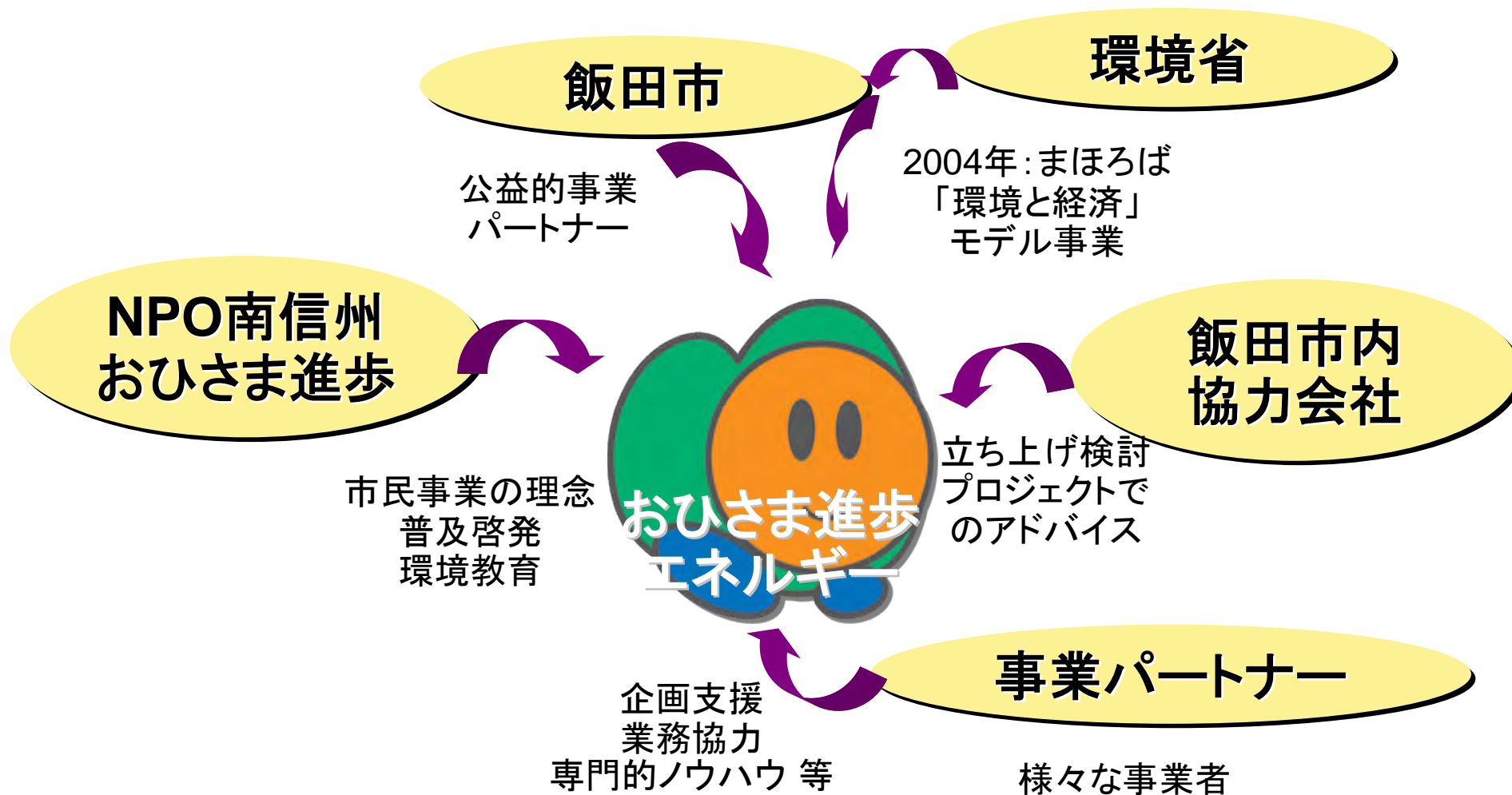
いいむす21登録

30事業所  
うちISO取得済  
南信州いいむす21取得済  
29事業所  
従業員  
7,000人余

# おひさま進歩エネルギーの成り立ち

# パートナーシップ型環境公益事業

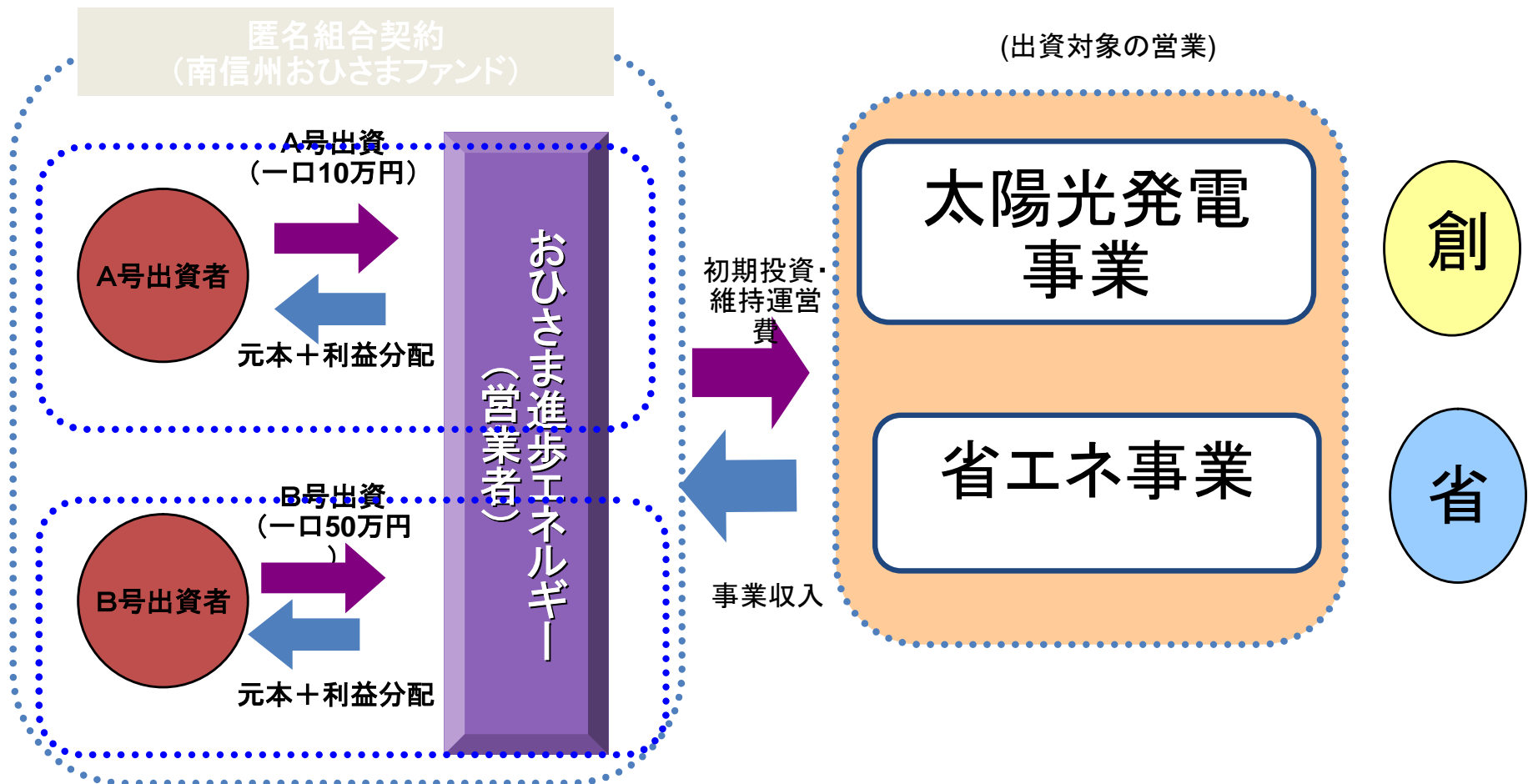
NPOの市民事業の理念を核に、様々な主体の力を集めて立ち上がった





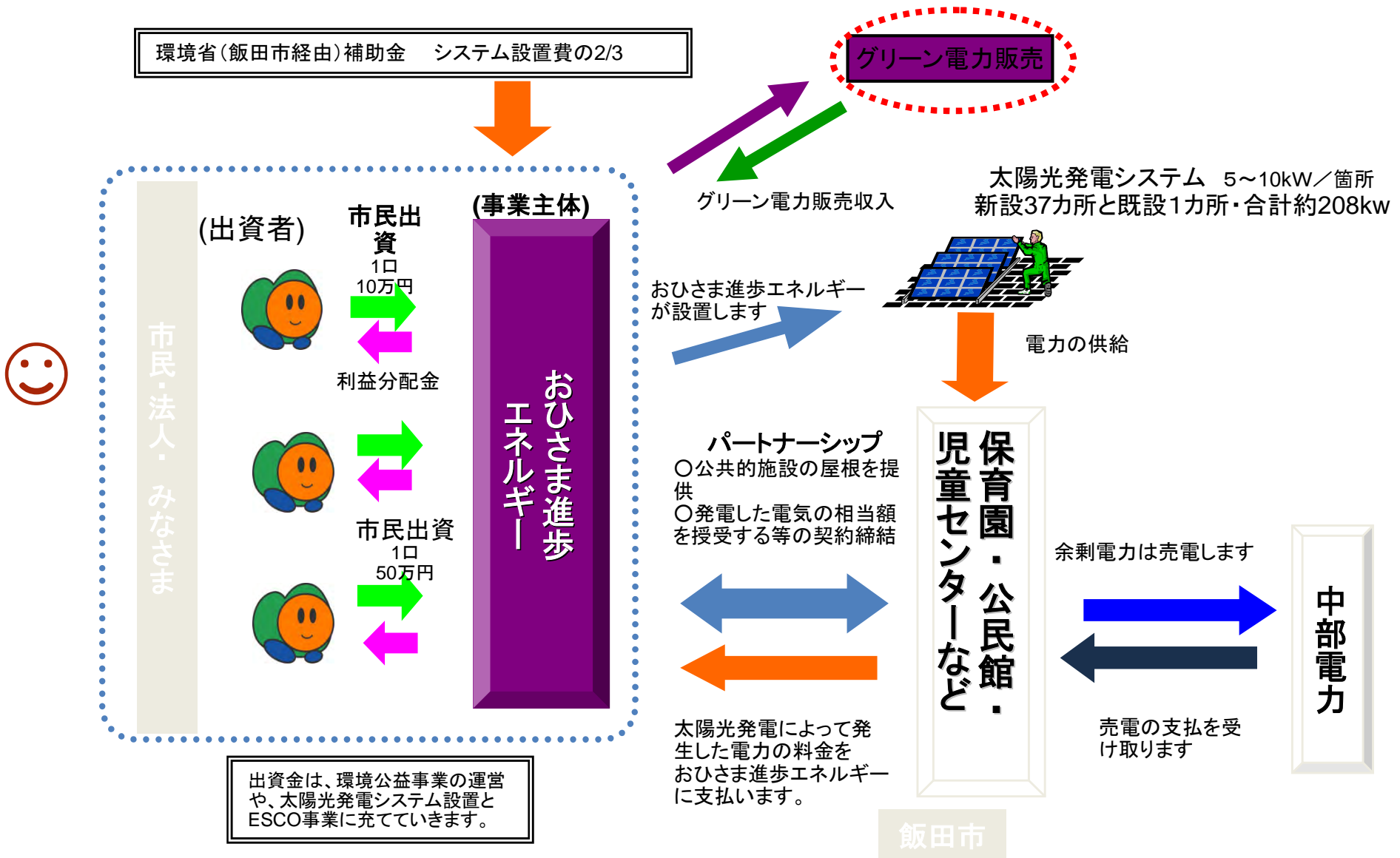
# 日本初の「南信州おひさまファンド」の仕組み

1つのファンドから「太陽光発電」と「省エネ事業」の2つの事業に対する投資をする仕組み。出資者への利益分配も2%以上を計画。



出資者の気持ちとお金によって、エネルギーの地産地消を形にします。

# 地域の小さな電力会社をつくりました





# ＜太陽光発電事業＞

保育園・公民館などの公的施設37箇所に設置 208KW



千代保育園に設置された  
太陽光発電設備

松尾児童クラブに設置された  
太陽光発電設備



# ＜おひさまファンドの太陽光発電事業のポイント＞

## 行政との売買電契約内容の特徴

☆ 20年の長期契約であること。

（行政財産の目的外使用についても20年の契約）

☆ 29円/kwhの買取契約であること。

（ただし大きく変動する場合は調整）

☆ 20年の契約期間の間には、建て替え、移転等が考えられるが、基本的には「事業の趣旨」をくみとり、契約が継続できるように「配慮する」という規定などを盛り込む…



## ファンド事業の実施状況と成果

事業内容	実施年度	導入数	規模など	CO2削減予想 (トン/年)
太陽光発電事業	04年度～08年度	162カ所	1281KW	782
	公共施設、民間事業所などに設置			
省エネ事業	05年度～08年度	21カ所		740
	公共施設、温泉施設、福祉施設民間事業所などへ 空調・証明などを中心に施工			
グリーン熱事業	06年度～08年度	13カ所		261
	温泉施設、民間事業所などに、太陽熱温水器や ペレットストーブ、チップボイラーなどを導入			
合計		196ヶ所		1783

※一部は岡山県の備前グリーンエナジー社の太陽光発電などに投資されている

# おひさま0円システム

## ～初期投資0円の太陽光発電設置～

全市の住宅用太陽光発電普及  
(日照時間に恵まれ豊富な日射量を地域資源として活用)

1052件・全世帯の2.8%普及(全国平均0.8%)

【住宅用太陽光発電システム設置奨励金制度】1kWあたり70,000円 上限20万円

## おひさま ゼロ円システムのしくみ

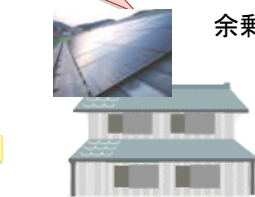
- ・当社がおお客様の住宅に0円で太陽光発電パネルを設置。お客様には9年間月々定額19,800円の料金をご負担していただきます。
- ・中部電力さんとの系統連系により、太陽光発電パネルが発電した電気のうち自宅で使わず余った電力は、1kWhあたり48円で中部電力さんに売電されます。(お客様の収入となります。)
- ・10年目に太陽光パネルはおお客様に無償で譲渡されます。

太陽光パネルを0円で設置



おひさま進歩  
エネルギー

月々19,800円



お客様の住宅

※設置条件があります。

余剰電力の売電

売電収入

1kWhあたり48円



中部電力さん

民間事業者・金融機関との  
共同事業

おひさま進歩エネルギー

飯田市

飯田信用金庫

温暖化防止政策と  
金融政策による支援



# 21世紀環境共生型モデル住宅整備事業

～エコ・エリアマネジメントの拠点～



信州飯田エコハウス  
推進協議会での運営  
※18団体で構成

指定管理者制度による  
建物の管理  
※飯田まちづくり  
カンパニー



## 4つの基本方針

- ①エコハウス建設推進のための拠点づくり
- ②環境活動の拠点づくり
- ③中心市街地活性化に寄与する賑わいの場づくり
- ④りんご並木沿道への立地にふさわしい建物づくり

## 7つの機能

- ①エコハウスの展示
- ②エコハウスの体験や学習
- ③エコハウスの相談
- ④環境活動の場
- ⑤気軽に立ち寄れる場
- ⑥親子連れが休憩・交流できる場
- ⑦まちづくり活動の拠点

## 計画条件等

### ■条件

- ① ゼロカーボン
- ② 2～3台の駐輪場

### ■敷地等概要

所在：飯田市りんご並木周辺  
敷地面積：約210m<sup>2</sup>  
用途地域：商業地域

### ■建物概要

構造：木造  
工事金額：税込約5,000万円



# 自転車市民共同利用システム推進事業

## ～自転車のまちにおける低炭素な移動手段の確保～

### 自転車のまち飯田



**13th TOUR OF JAPAN**  
2009.5/17 (Sun) ~ 24 (Sun)

第5回全日本実業団  
サイクルロードレースin飯田

第4回大会の様子



9/27

キャラクター  
"りんごチャリターズ"



### 自転車市民共同利用システム



#### 【目的】

- 中心市街地にある公共施設に自転車等を配置して市民が自由に利用することで自転車の浸透を図る。
- 宿泊施設に電動自転車等を貸与して、自転車によるまちなか観光に活用。
- 事業所に電動自転車等を貸与して、通勤における自転車活用を促す。
- 中学校に電動自転車を配置して、遠距離通学者の特に部活動への通学手段及び近距離自動車利用抑制等の環境教育に活用する。

#### 【設置台数】

- 電動自転車96台、クロスバイク18台、マウンテンバイク16台 計130台

#### 【設置場所】

- 中心市街地の公共施設 10カ所
- 中学校 1カ所
- 事業所 10カ所
- 宿泊施設 16カ所 計 37カ所

# 低炭素型企业活動への取り組み

## ～LED防犯灯の共同開発と市内防犯灯への活用～

ビジネスネットワーク支援センターの取り組み

市内防犯灯のLED化による意識啓発



**(財)飯伊地域地場産業振興センター**

～地域のものづくりの明日を拓く中心組織として～



### ものづくりの拠点 ～飯田独自の事業展開～

- ◆ 地域産業振興事業
- ◆ 産業技術大学
- ◆ 工業技術センター（各種試験・技術相談）
- ◆ EMCセンター（電磁波防止技術関連）
- ◆ **ビジネスネットワーク支援センター**
- ◆ 環境技術開発センター（インキュベーション関連）
- ◆ 地場産品紹介、販売

飯田市  
(環境モデル都市)

バックアップ

飯伊地域  
地場産業振興センター  
(地域産業の活性化)



平成9年発足

ビジネスネットワーク支援センター登録企業グループ

**NESUC-IIDA**  
【ネスクーイイダ】

飯田・下伊那共同受発注グループ

- 第3セクターで共同受注窓口として、飯田下伊那地域企業のコーディネートを実施。
- 精密・電子・光学などの様々な業種、試作品から量産物まで幅広いニーズに対応。
- 地域内のネットワーク連携で新しい分野への取り組み。

(登録企業57社)

LED  
防犯灯の開発



NESUC-IIDA及び地元企業17社により省電力・小型化・低価格の2機種の開発に成功

飯田市内にある  
防犯灯をLED化  
3,000本設置予定

環境モデル都市を  
はじめ他の自治体  
への販売促進を実施